



巻頭言

財団法人日本科学技術振興財団
会長・科学技術館 館長

有馬 朗人



基礎科学者が研究に情熱を燃やす理由はなんであろうか。私は先ず自然の秘密を知りたいという好奇心を満足させることであると思う。

人間は誰でも好奇心を持っている。その対象は自然の仕組であったり、歴史であったり、社会現象などである。その中でも自然の秘密に関心を持つ人は多いであろう。しかしすべての人が自ら基礎研究に参画するわけにはいかない。そこで少数の科学者は多くの人々の代りになって研究し、その結果自分自身の好奇心と同時に、多くの人々の好奇心も満足させるのである。

その研究の目標は全く研究者や研究グループの自発性によって立てられる場合や、国なり自分の属している組織がトップ・ダウン的に研究者や研究グループに与えてくることがあろう。しかし一たん自分の目標としたときには、やはり自発的な個人的な好奇心が推進の中心になるであろう。

基礎科学の研究対象には、その研究がどのように役に立つのかすぐには分からないものが多い。単に趣味的に研究しているに過ぎないのではないと言われることがある。しかし根本的には上に述べたように、人類の好奇心を満足させ、人類の叡智を積み上げているのであるということ認識すべきである。

しかし基礎科学研究者も自分の好奇心を満足させるために行っている研究が、世の中にどう関係し、どのように役立っているのかをときどき反省しなければならない。勿論すぐに応用されるような分野の研究者にはこの反省は必要ないかも知れない。しかし基礎研究のなかにはすぐ世の中で役立たないものが一杯ある。実は私の研究もそうである。勿論上述したように人間の好奇心を満足させるのだという、大きな生存理由がある。それにしても時にはこのような反省が必要である。

更に一歩進めて基礎科学研究者は、その研究の面白さや、意味を一般市民に伝える必要がある。応用から離れれば離れる程、そのような努力をするべきである。

それと同時に基礎科学の研究がどんなに面白くても、なんらかの理由で人類社会に悪い影響を生み出す可能性があることが分かった場合には、断固として、その研究を中断すべきである。そして不幸にして悪影響を生んでしまったら、それを除く研究に立ち向かわなければならない。これは科学者の社会的責任である。

基礎科学者は楽しみながら研究を情熱的に行う。と同時に自らの研究がどういうものであり、科学はどのように面白く重要かを説明をする責任も持っていることを自覚すべきである。